

大雨のとき、どのように避難するの？

自宅の外への避難

日頃しておくこと

自宅周辺の災害危険性を把握しておきましょう

洪水や土砂災害が起きたときに、自宅が倒壊したり、深く浸水したりする危険性がないかを把握し、自宅の外へ避難する必要があるのかを確認しておきましょう。

避難先・経路・方法を確認しておきましょう

安全な避難先と避難経路を家族や地域で確認しておきましょう。
また、徒歩で避難することが基本です。



非常持出品の準備をしておきましょう

非常持出品リストは **p27, 28**

自宅の中での避難

屋内安全確保をするために日頃から備蓄をしておきましょう。
ハザードマップを見て、浸水深よりも自宅が高いか確認しましょう。

家庭内備蓄品リストは **p28**

大雨が降りそうになってきたら

情報を収集して避難判断をしましょう

情報の収集は **p08**

避難判断の目安は **p02**

大東市からの
防災情報
避難指示などに注意を



携帯電話

ラジオ

テレビ

パソコン

雨量・河川水位情報などの収集!

避難するとき

ご近所に声をかけましょう

単独での避難は、思わぬ事態にあったときに危険です。避難する前にご近所に声をかけ、集団での避難を心がけましょう。



自主防災組織の活動に参加しよう! **p24**

注意して避難しましょう

動きやすい服装で、必要最小限の荷物で、避難しましょう。



非常持出品・家庭内備蓄品リスト **p27, 28**

河川や水路などには、近寄らないようにしましょう。

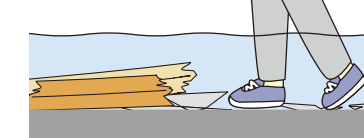


やむなく浸水の中を歩かなければならないときの注意

長靴はぬげることがあるのでなるべく運動靴にしましょう。



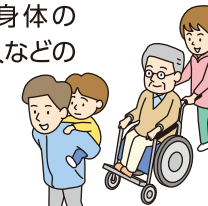
水の中の障害物に注意しましょう。



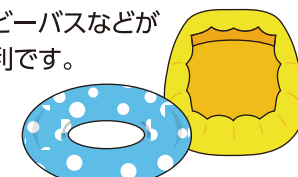
マンホールに気づかず吸い込まれてしまう場合があります。危険ですので、注意しましょう。



高齢者や身体の不自由な人などの手助けをしましょう。



幼児は浮き袋やベビーバスなどが便利です。



氾濫による水は汚水が混ざっている、むやみにさわらないようにしましょう。



車は約30cmの浸水深で走行困難になります。

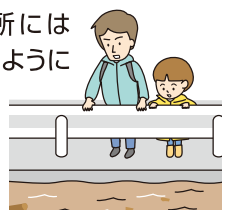


人が歩ける深さの目安は50cmから70cmくらいです。



※水の流速によっては歩けない場合があります。

危険な場所には近寄らないようにしましょう。



避難所では

避難所ではお互いに気を遣いましょう

避難所では、不特定多数の人々が一定期間滞在することになります。高齢者や障害者、乳幼児を抱えた方などへの気配りを心がけましょう。また、できる限りの感染症対策を行いましょう。

災害時の感染症対策 **p05**

